

1. 理念・目的

1章 理念・目的

1. 現状の説明

(1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

< 1 > 大学全体

本学は1966年4月に千葉敬愛経済大学として創設され、経済学部経済学科のみの単科大学として出発した。1988年に大学名を敬愛大学と改め、現在では2学部4学科（経済学部経済学科／経営学科、国際学部国際学科／こども学科）の総合大学として半世紀の歴史を刻もうとしている。

大学名の「敬愛」は、本学園創立者である長戸路政司が、西郷南洲（隆盛）の遺訓である「敬天愛人」に深い啓示を享けて名付けたものである。南洲は「敬天愛人」について、「道は天地自然の道なるゆゑ、講学の道は敬天愛人を目的とし、身を修するに克己を以て終始せよ」、「道は天地自然の物にして、人は之を行うものなれば、天を敬するを目的とす。天は我も人も同一に愛し給うゆゑ、我を愛する心を以て人を愛する也」と述べている。端的には、「天地自然によって生み出された人間の生きるべき道は、この世に生を与えてくれた天を敬い、かつ自分と同じく天によって生かされ生きている人々に、無限の愛を寄せるべきである」という精神である。創立者はこの精神に基づき、教育者は、学生・生徒・園児がすべて例外なく、人間の尊厳性と無限の可能性を持っていることを認識し、一人ひとりを「敬愛」すべきであり、また教育者は人間の尊厳を重んじ、その可能性を最大限伸ばすために努力すべきであることを、教育の基本方針とした。

本学は、このような建学の精神「敬天愛人」に基づき、「教育基本法及び学校教育法に則りつつ、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授・研究し、知的道徳的及び応用的能力を展開する大学教育を施し、もって文化の発展に寄与する有為の社会人を養成することを目的としている」と学則に定めている（資料1-1 第1条）。大学名にも明示されている建学の精神が、大学全体の理念・目的を具現化するための原動力、推進力となっていることは衆目の一致するところである。

< 2 > 経済学部

本学部の理念・目的は、学則第1条に基づき、「敬愛大学経済学部規程」第3条に教育研究上の目的として以下のとおり定めている（資料1-2 第3条）。

経済学科は、経済学に関する幅広い知識を修得し、実社会で応用できる能力および国際協調の精神を持って、広く社会に貢献する人材を養成することを目的としている。

経営学科は、経営学に関する幅広い知識を修得し、実践的なマネジメント能力およびグローバルな視野を身につけ、広く社会に必要とされる人材を養成することを目的としている。

< 3 > 国際学部

本学部の理念・目的は、学則第1条に基づき、「敬愛大学国際学部規程」第2条の2に教

1. 理念・目的

育研究上の目的として以下のとおり定めている（資料1-3 第2条）。

国際学科は、幅広い教養とグローバルな視野を持ち、地球上の平和を希求する国際人であると同時に地域社会に貢献する人材を養成することを目的としている。

こども学科は、国際学の幅広い教養を基礎にし、こどもへの深い理解と慈愛に満ちた人材を育成することを目的としている。

(2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。

< 1 > 大学全体

本学では、学則第1条に理念・目的が、経済学部規程第3条および国際学部規程第2条の2にそれぞれの学部の理念・目的が整備されている。これらの内容についてはいずれも、大学Webサイト「大学概要」の中で明示され、また『大学案内』での公表等、各機会を捉えて周知に努力している。

教職員および学生に対しては、①入学式および卒業式など全学的行事の際に「敬天愛人」の精神とその意義について説明する。②敬愛グループ各校が所持する西郷南洲（隆盛）、敬天愛人、学祖長戸路政司関連の叢書、論文等の目録を「敬天愛人文庫」として集成し、情報の共有化を図っている（資料1-4）。③2008年度から、大学において「敬天愛人講座」を正規の授業科目として開講し（資料1-5 p.15）、建学の精神・理念に対する学生の意識を高めることに努めている。

以上のように、本学では教職員および学生に対する理念・目的の周知に努めている、ただし、授業科目である「敬天愛人講座」の成績評価を除けば、その有効性を検証するまでには至っていない状況にある。

社会への公表では、『大学案内』（資料1-6）および大学Webサイト（資料1-7）において建学の精神を説明し、併せてその今日的意義について述べている。

< 2 > 経済学部

本学部の理念・目的は、学部長、学科長を中心に内容が検討され、学科会議および教授会での審議のうえ経済学部規程に明文化しており、教授会などでの議論を通して、教職員への周知がなされている。

学生に対しては、学年・学期初めに行われるオリエンテーション、ガイダンス、本学部生の多くが履修する「敬天愛人講座」において周知する機会が設けられている。

社会への公表については、大学Webサイトにおいて、学部の理念・目的（資料1-2）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（資料1-8）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（資料1-9）、学生受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）（資料1-10）を公表している。

< 3 > 国際学部

本学部の理念・目的は、学部長、学科長を中心に原案を作成し、学科会議や教授会で審

1. 理念・目的

議のうえ国際学部規程に明文化しており、教授会などでの議論を通して、教職員への周知がなされている。

学生に対しては、学年・学期初めに行われるオリエンテーション、ガイダンス、本学部生の多くが履修する「敬天愛人講座」において周知する機会が設けられている。

社会への公表については、大学 Web サイトにおいて、学部の理念・目的（資料 1-3）、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）（資料 1-11）、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）（資料 1-12）、学生受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）（資料 1-10）を公表している。

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

< 1 > 大学全体

理念・目的としての建学の精神「敬天愛人」は、時代を超えた普遍性をもつものである。本学では、2002年に大学基準協会の正会員として加盟承認を受ける以前から、両学部においてそれぞれ自己点検・評価報告書を公表してきた。さらに2007年、大学基準協会に提出した自己点検・評価報告書においても、建学の精神の適切性について説明している。

なお、この間の両学部における学科の再編、新設に向けた取組みにおいても、時代の変化への対応を見据えながら、建学の精神との整合性について慎重に検討を進めることを通して検証を行っている。

< 2 > 経済学部

時代の要請と社会のニーズに応えるため、経済学科において系やコース、専攻を設け、段階を踏んで新たに経営学科を設置するに至った。このような組織体制の見直しを進める際に、学部長、学科長、教務委員が中心となって学部の理念・目的の適切性について検証を行った。また、この検証を踏まえて新たなカリキュラムの作成が行われている。

< 3 > 国際学部

時代の要請と社会のニーズに応えるため、国際学科においてコース、専攻を設け、また新たにこども学科を設置するに至った。このような組織体制の見直しを進める際に、学部長、学科長、教務委員が中心となって学部の理念・目的の適切性について検証を行った。近年では、2009年度、2011年度、2013年度のカリキュラム改訂時に、主に学部長、学科長、教務委員が理念・目的について検証を行った上で原案を作成し、学科会議、教授会で検証し、新しいカリキュラムを作成している。

2. 点検・評価

●基準の充足状況

大学・学部の理念・目的の土台となる建学の精神が明示されており、様々な機会と働きかけを通して大学構成員（教職員および学生）に周知し、Web サイト等によって社会に公表

1. 理念・目的

している。両学部における学科の再編、新設とそれに伴うカリキュラムの改訂時において、理念・目的の適切性を検証しており、概ね基準を満たしている。

①効果が上がっている事項

< 1 > 大学全体

・建学の精神をふまえて両学部の理念・目的が明確に設定されており、それに則して新たな学科の設置やコース等の再編がなされた。

・大学構成員の建学の精神についての意識を高め、理念・目的を周知するための多様な手段を持ち得ている。

< 2 > 経済学部

・学部の理念・目的を検証しながら改革を進め、新たに「経営学科」を設置するに至った。経営学科の設置と並行して、学部の理念・目的と照らし合わせながら既存の経済学科のカリキュラム改訂とコースの再編を行うことができた。

< 3 > 国際学部

・2011年度カリキュラム改訂作業等を通して、学部の理念・目的の適切性や、それに応じたカリキュラムについて検証し、専門教育の指導効果を十分に達成するために、国際学科の専門科目を世界の国と地域 (A)、国際社会のしくみと課題 (B)、世界の中の日本 (C)、国際経済・経営 (D) など8科目群に分け、それぞれの科目群内に導入科目、基本科目、発展科目を配置したことは、学部の理念・目的の周知という観点からも評価できる (資料1-13 p.94~99)。

②改善すべき事項

< 1 > 大学全体

・建学の精神は明確であるものの、大学・学部の理念・目的、人材養成の理念・目的の一貫性については検討する余地がある。

< 2 > 経済学部

・これまでの学部の理念・目的を絶対化することなく、その妥当性について定期的に検証していくことが求められる。

< 3 > 国際学部

・絶えず変化している現代の経済・社会・情報に、その理念・目的が適合しているかの検討を、定期的に行う必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

< 1 > 大学全体

1. 理念・目的

- ・建学の精神をふまえて、大学・学部・学科の運営において理念・目的を共有しながら、一体感と一貫性をもった取組みに努める。
- ・建学の精神の浸透を図るために、より効果的な手段、方法・内容について検討を進めていく。

< 2 > 経済学部

- ・2 学科体制の充実・発展に向けて、学部の理念・目的と学部のめざす人材養成の整合性について検証していく。

< 3 > 国際学部

- ・国際学科の「専門科目の科目群」の運用について、学部の理念・目的に沿った人材養成に合致しているかを検証していく。

②改善すべき事項

< 1 > 大学全体

- ・大学の理念・目的、各学部の教育目標、人材養成の理念・目的の一貫性について、改めて検討を行う。併せて、学則の理念・目的について見直しが必要であれば、文言等の修正も含めて改正を図る。

< 2 > 経済学部

- ・学部の理念・目的と3つのポリシーとの整合性を図るための議論を学科会議、教授会で進めていく。

< 3 > 国際学部

- ・カリキュラム実践の中で教育理念・目的といわゆる3つのポリシーとの整合性についての議論を学科会議、教授会で進めていく。

4. 根拠資料

- 1-1 敬愛大学学則
- 1-2 敬愛大学経済学部規程
- 1-3 敬愛大学国際学部規程
- 1-4 敬愛大学ホームページ「敬天愛人文庫 目録」
<http://www.u-keiai.ac.jp/keiten/mokuroku.html>
- 1-5 授業計画書（全学年用）2013
- 1-6 2014 大学案内（Keiai University School Guide）
- 1-7 敬愛大学ホームページ「大学概要」
<http://www.u-keiai.ac.jp/outline/index.html>
- 1-8 敬愛大学ホームページ「経済学部ディプロマ・ポリシー」
<http://www.u-keiai.ac.jp/economics/diploma/index.html>
- 1-9 敬愛大学ホームページ「経済学部カリキュラム・ポリシー」

1. 理念・目的

http://www.u-keiai.ac.jp/economics/curriculum_p/index.html

1-10 敬愛大学ホームページ「入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）」

http://www.u-keiai.ac.jp/admissions/admission_p/index.html

1-11 敬愛大学ホームページ「国際学部ディプロマ・ポリシー」

<http://www.u-keiai.ac.jp/international/diploma/index.html>

1-12 敬愛大学ホームページ「国際学部カリキュラム・ポリシー」

http://www.u-keiai.ac.jp/international/curriculum_p/index.html

1-13 CAMPUS LIFE 2013 国際学部